

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	百貨店（販売促進担当）	・テナント別の売上をみると、飲食にしても、アパレルにしてもお得感がある店の売上は落ちておらず、飲食も物販もその意味では底堅い。今後はボーナス商戦に向け、値の張る冬物の売上、忘年会等に期待できる。
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街全体の沈下を、実感としても感じられる。さらに交通量調査の結果では、商店街ばかりか中心市街地全体で通行量は減少しており、このままでは良くならない。
		商店街（代表者）	・暖冬予報の予想で、単価の低い軽衣料中心の動きになる。
		一般小売店（営業）	・ガソリンが安くなっている分、冬の灯油代の心配をしなくてもよくなると思う反面、世界同時株安の影響や円高の影響は地方都市についても少なからずあると思うので、相殺して変わらない。
		百貨店（営業担当）	・高単価のアウターやコートにヒット商品がなく、気温の低下により多少売上があるかもしれないが、前年を上回るようなレベルまでは回復しない。
		百貨店（販売促進担当）	・クリスマス、歳暮、年明けのクリアランスと商戦時期になるが、歳暮は件数が絞り込まれそうで、クリアランスもまとめ買いは見込めないなど、客の慎重な姿勢はこれからも続く。
		百貨店（購買担当）	・物産展関係は、どんなに高額でも、何時間並んでも手に入れようという客の意欲が見受けられるので、今後食品関係の催事等は潤う。しかし、衣料品・服飾雑貨に関しては、セール品になっても必要な物しか買わないという傾向は、現在と変わらない。
		百貨店（販売担当）	・株価の下落や景気減速が、購買心理を冷やしきっている。この状況は当分続く。
		スーパー（店長）	・必要な物を、安い時に、必要な量しか購入しない、というシビアな購入の仕方は今後も続く。
		スーパー（店長）	・ここ半年以上、販売点数・来客数共に前年比100%以上をクリアしている。この流れは急に変わることはないが、現状の円高の影響で、先行きの不安は若干ある。
		スーパー（管理担当）	・競合店出店により、来客数が増加する傾向がみられない。また、商品単価の値上げによって、買上点数も必要な物のみになっているため、売上金額の増加も見込めない。
		コンビニ（エリア担当）	・現在のやや良い状況は、年末に向けて当分続く。当社は高額商品を扱っているわけではなく、最低限の必需品を提供しているので、消費はむしろ増えてくると見込んでいる。同業他社に聞いても、同じような答えが返ってくる。ただし食品業界は安全・安心が求められており、その点にはくれぐれも注意していく。
		衣料品専門店（店長）	・単価を下げれば売れるということでもないようで、客はしっかりと吟味し、必要な物しか購入しない状況で推移する。またガソリンが少しずつ値下がりしているが、あまり遠出はしない傾向も変わらないので来客数も変化しない。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・セールが当たっているので、このセールを継続する2～3か月の間は変わらない。
		家電量販店（店長）	・先行き不透明な状況のため、客の間に買い控えの傾向がだんだん浸透していく。
		乗用車販売店（サービス担当）	・これだけマスコミ等で景気の低下を宣伝されると、少々ガソリン価格が下がっても、消費者の買い控えは抑えられない。しかし人気のコンパクトカーがフルモデルチェンジされて12月に発売されるため、少しは期待が持てそうである。
		その他飲食【ハンバーガー】（経営者）	・食の問題が次々に明らかにされており、価格にお得感もないため、ますます外食から足が遠のく。
		都市型ホテル（総務担当）	・株価や円高等、厳しい話ばかりで明るい話題がない。また、当地は冬場の観光客は見込めないため、集客増についてのアイデアが乏しく、苦戦する。
		タクシー運転手	・タクシー離れの進展、及び近距離圏の利用の増加により、見通しとしては伸びることはない。
通信会社（総務担当）	・新メニュー投入の効果は限定的と予想され、契約獲得の見通しは厳しい。		
テーマパーク（財務担当）	・特殊要因により、年内は引き続いて来客数が大きく増加することが見込まれる。		

	美容室（経営者）	・今月に入ってから、来客数・客単価共に動きが鈍くなっている。これから3か月先も、先が見えず不透明である。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・世界的に景気が悪い状況のなかで、良くなる材料が全くと言ってよいほど見当たらないので、客は心理的に生活防衛中心になっている。この状況はまだまだ続くだろうし、良くなる見込みはない。
	一般小売店〔酒店〕（経営者）	・ガソリン価格の低下などの好材料もあるが、物価上昇、経済混乱の先行き不安が勝り、景気は低調に推移する。
	一般小売店（経営者）	・客はいろいろな面で自己防衛に躍起になるので悪くなる。ただし、当社は単価が低い商品を扱っているので、消費者が高い物から安い物へと移行すれば、今月同様あまり悪くはならないとの希望的観測もでき、複雑な状況である。
	一般小売店〔印章〕（営業担当）	・株価が大幅に下落しており、知人の会社は、株を担保に銀行から融資を受けているため、いったん清算し、その後改めて融資を受けるという話で、清算を迫られている。他にも数件、貸し渋りによる倒産の危機が迫っているという話も聞く。
	百貨店（営業担当）	・本年も暖冬が予想されており、トレンドも大きく変化はしていないので、手持ちの防寒衣料で対応したり、雑貨小物のみ購入し、昨年購入した物に変化をつけたりする人が多くなり、売上は伸びない。
	百貨店（営業担当）	・金融不安・円高や株価暴落などマクロな不安材料が好転しない限り、やや悪くなる。
	百貨店（電算担当）	・売上は前年並みであるが、中身は非常に厳しいので、これからは良くならない。客は自ら進んで買物をせず、人に勧められて消費が動く状態で、催事でも食品だけが健闘しており、この状態が続く。
	百貨店（売場担当）	・客の声として、年末の経済対策に期待する声も聞こえ始めたが、小売業中心に賞与の大幅減が団体交渉のなかでも決まっており、節約志向は変わらない。在庫量の削減が11月以降響いてくると予想され、セール在庫も品薄で、クリアランスも期待できない。
	スーパー（店長）	・来客数が半年以上前年を下回っている現状を考えると、ここ2～3か月で景気が上方に向かうとは、とても判断できない。
	スーパー（総務担当）	・ただでさえ物が売れなくて困っているのに、メディアが、「円高だ、株安だ、銀行の貸し渋りでリストラが始まる、景気が悪くなる」等と報道し、不安を煽っているため、来店した客は一律に「景気が悪いから、これからどうなるかわからない」と話している状態であり、良くなるとは思えない。
	スーパー（経理担当）	・地域ではかなり倒産なども増え、将来に向け、非常に暗い感じがしている。
	スーパー（販売担当）	・食料品の安全性に対する不信感が広がっていることに加え、値上がりが続いているので、売行きが鈍くなる。
	コンビニ（エリア担当）	・今月は良かったが、3か月後には厳しさは戻ってくる。さらに競合の出店・異業種の出店も控えているため、やや悪くなると判断している。
	コンビニ（エリア担当）	・景気が悪いというマスコミの報道により、必要な物しか買わないという気持ちが一層高まってくる。
	コンビニ（エリア担当）	・最近、不景気感が世間にまん延しており、このためコンビニ業界もだんだん販売量が減っており、更に今後厳しくなる。
	コンビニ（エリア担当）	・株価の大幅下落・円高による企業業績の悪化は、個人の所得に影響を与え、消費マインドの低下から来る買控えが、消費の最下流である小売業において発生し、売上は低迷する。
衣料品専門店（地域ブロック長）	・秋物の動きが悪く、在庫が非常に多くなっており、値下げによって利益が半減する懸念がある。	
乗用車販売店（統括）	・来客数が減少しており、買い控えがますます加速していく。	
乗用車販売店（統括）	・買い控え、単価の低いものへの変更など、お金を使わない方向になっている。客との話題のなかにも「不景気だから」という言葉が多い。	
乗用車販売店（店長）	・販売実績及び来客数共に、前年に比べ激減している。	
自動車備品販売店（経営者）	・ガソリン価格が低下傾向になったのは好ましいが、景気の先行き感が不透明なために、必要最低限の物しか買わない傾向は続いており、回復する見込みはない。	
自動車備品販売店（店長）	・タイヤ・オイルなどの消耗品は例年並に動いているが、ぜいたく品であるナビゲーションなどの動きが非常に悪く、この傾向は続く。	

その他専門店〔時計〕 （経営者）	・株価や為替価格は、すぐさま消費に関係しないと思うが、長期的には購買マインドに徐々に影響してくる。
その他専門店〔カメラ〕 （店長）	・経済情勢が非常に悪く、今後、消費全体に波及してくる可能性が高い。
その他小売（営業担当）	・全体的に景気の低迷が継続する。
高級レストラン（スタッフ）	・予約状況は、この秋口あたりから少なくなってきた。先の予約等も、数か月前に比べると鈍ってきている。
観光型ホテル（スタッフ）	・閑散期の先行予約状況が悪く、これから先の予約の入り具合に期待したい。
都市型ホテル（従業員）	・年末に掛けて予約が鈍っており、不安でいっぱいである。ここまで経済不安が高まると、景気が良くなるとは思えない。
タクシー運転手	・客も皆、プラスの材料を感じていないようなので、悪くなる。
通信会社（社員）	・株価が下がるなどの経済的な要因が、将来的に給与などに影響を及ぼしてきて、出費などが抑制される傾向になる。
通信会社（企画担当）	・この半期で、原油・原料高から金融危機へと不安要因が変わり、とても上向きとは言えないものの、客の購買姿勢に、思った以上の大きな落ち込みはない。業績等はやや悪い状態のまま推移する。
通信会社（営業担当）	・訪問先企業等で、新規案件の延期や見直しの声がある。
テーマパーク（広報担当）	・地元で巨大なショッピングモールがオープンしたが、レジャー施設も充実しているので、競合する部分が出てくる。
テーマパーク（業務担当）	・物価高などにより、家計支出を引き締める傾向が、社会全体に広まっている。行楽の費用も限られて、出控えが起きやすくなり、その結果、来客数にも影響を及ぼす。
設計事務所（経営者）	・地域全体の景気が落ち込んでいて、消費者の財布のひもも緩まない。
設計事務所（経営者）	・年始めの急激な建築費の高騰は収まったが、高止まりの状況は変わりそうになく、金融不安が続くうちは、顧客は大きな投資を決断することはない。
悪くなる	
商店街（代表者）	・昨今の世界経済の下落傾向は、消費者心理に強いインパクトを与え、消費者の防衛的な購買姿勢はいよいよ顕著になる。必要な時に、より安く、より付加価値の高い商品を購入する姿勢は今後も続く。
商店街（代表者）	・来客数の減少に加えて、ランチ、セット類以外の注文が少なくなっており、この傾向はこれからも続く。
一般小売店〔茶〕（経営者）	・世界的な金融不況が、今後、生活にどのような影響を与えるのか、大変心配である。これから大きな波が来れば、私たちのような弱小企業はひとたまりもない。
スーパー（店長）	・円高・株安で悪くなる材料ばかりで、客の様子を見ても、良い方向は見出せない。
スーパー（財務担当）	・株価の下落、円高等による景気の先行き不透明感により、消費者の生活防衛意識がますます強くなる。
スーパー（経営企画）	・世界的な金融危機による株価の下落や、投資信託などの金融商品での損失の話が、身近なところで数多くある。消費マインドは急速に冷え込んでいることが、販売量の落ち込みからも分かり、回復するめどはない。
コンビニ（エリア担当）	・通行する車や来客数の減少と、現在の景気の不安定な状態を考えると、悪くなる。
衣料品専門店（経営者）	・一部メーカーを除き、春夏の展示会での状況を見ても、担当者話を聞いても、大変悪く、良くならない。
衣料品専門店（販売促進担当）	・女性の客はそうでもないのだが、男性客の買い控えが目立つ。景気が悪く、先行きもみえないから、本当に必要な物以外は買わないという客の声が多いので、今後も厳しい。
家電量販店（店長）	・株価・円高という金融不安が大きい。ボーナスも不安で、今後一層、消費が停滞してくる。
家電量販店（店長）	・薄型テレビのオリンピック需要の反動により、売上台数の鈍化と単価の下落があり、更に穴埋めができる商品が見当たらないことにより、売上高の確保が非常に困難となる。また景気の先行きが不透明であり、耐久消費材への消費増加が見込めない。
乗用車販売店（経営者）	・為替や株の乱高下に振り回されている現状のなかで、原油はそれなりに値下がり傾向だが、その割にはガソリンの価格はあまり下がらない。より不安定な状況のなかで、買い控えの傾向はこれからも続く。
乗用車販売店（販売担当）	・明るい材料が何一つ見当たらない。顧客の買い控えは更に加速する。

	住関連専門店（広告企画担当）	・現在も客が買い時を探っている感じで、購入に至るまでの検討回数が増えている。新規客の動きも鈍く、これからは既存客の契約単価も落ちてくる。	
	その他専門店〔布地〕（経営者）	・当店の取引先の間屋が今月2軒倒産した。これから先に向けても、あまり良い話を耳にしない。	
	一般レストラン（店長）	・忘年会獲得に向けて努力しているが、客の反応が悪い。	
	一般レストラン（店長）	・常連の客でも、予約や来店回数が減っている。支出が安定しない限り、来客増は難しい。	
	スナック（経営者）	・来客数も減って、売上も落ちているので、年内で閉店しようかという店が大変多くなっている。金融機関は金を貸してくれるが、経費ばかり掛かって赤字になり、借りても返せないことが多い。	
	観光型ホテル（経理総務担当）	・現段階で、客に不況への危機感さはほど感じられないが、これほどマスコミ等で報道されれば、必然的に財布のひもは固くなり、旅行や外食は手控えられる。	
	都市型ホテル（経営者）	・前年比で予約数が少ない。ますます企業の経費節減、個人消費の冷え込みが懸念材料となり、利用の手控えや単価の減少につながる。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・株価が下がり、不景気が続いていることから、出費を抑えている様子であり、この状況は当分続く。	
	タクシー運転手	・客の会話から、社会保障の不安や、世界経済の不安がひしひしと感じられる。また、客から「今年は忘年会や新年会がめっきり減りますよ」と声を掛けられ、これから先が懸念される。	
	通信会社（通信事業担当）	・無駄なものはすぐに省く傾向は強く、追加のオプションサービスなどはかなり減ってきており、回復の見込みはない。	
	美容室（経営者）	・夏以降、どこの店に聞いても暇な日が多くなったと言う。ニュースを見ても暗い材料ばかりで、客は皆出費を控えていると思われ、この傾向は今後も続く。	
	美容室（経営者）	・今後の見通しが立たないので、財布のひもは一層固くなる。	
	設計事務所（経営者）	・先行きの見通しが立たないなか、客の消費行動が慎重になっている。同業他社においても苦しい経営状況が続き、雇用さえ維持できない状態も発生してくる。	
	設計事務所（経営者）	・年末資金のめどが立たない。金を借りても返す当てがない。早急の施策が求められているのに、これに対して行政はどのように応えてくれるのか、何も見えてこない。	
	住宅販売会社（従業員）	・来客数の減少傾向が顕著に現れており、反応も薄いので、これからの受注に大きく響いてくる。	
	住宅販売会社（販売担当）	・展示場、イベントへの来客数が前年比3割減となり、今後の受注数・受注額共に増加は期待できない。	
	住宅販売会社（経理担当）	・不動産業界では、金融危機以前より景気が悪くなっていたが、今回の金融危機が発端で更に景気動向は悪くなる。銀行の貸し渋りによるマンション等の着工の減少や、収入減による消費者の購入意欲の低下が顕著になる。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	農林水産業（従業者）	・今月は青物魚の水揚げが好調で、結果的に例年並みの水揚げが確保できたが、イカ釣り漁が不振のため、今後が心配される。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・各地の焼却炉生産が続き、現在の生産水準が継続できそうである。原料価格の高騰が続くが、原料価格高騰分に関して価格改定を実施したので、何とかかなりそうである。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	・全商品の値上げ決定に伴い、一時的に駆け込み需要で売上が伸びたが、今後はその反動で売上が減少する。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・3か月先の受注計画は、期初計画から30%程度減少となっており、回復の兆しは全く見えない。
		建設業（経営者）	・建設はだめだが、一時期、工場関連の人が集まったことで賃借が活発だった不動産関係も、最近急に冷え込んできたようである。3か月先も落ち込んだまま変わらない。
		輸送業（運送担当）	・原油価格等が相当安くならないと、景気の回復は見込めない。
	会計事務所（職員）	・高騰していた鉄等の原材料費が秋口になって、かなり下がってきている。ただ、それが原価の削減に与える影響はそれほど大きいとは言えず、経営指標が劇的に改善するとは思われない。むしろ、今後も売上高の減少という不安要素の方が大きい。	

やや悪くなる	食料品製造業（総務担当）	・来年から当社の商品も値上げを考えていかなければならないが、値上げ部分があるまま売上増・利益増になるかという点、そうでもなく、先行き不安に感じている。	
	鉄鋼業（総務担当）	・世界経済は大きく後退局面であり、自動車・鉄鋼・電機といった主要産業が大きく減退している状況をかんがみると、先行きも景気は悪化する。	
	鉄鋼業（総務担当）	・足元の生産量は、フル操業が続いているが、昨今の米国金融不安を受けて、調整局面を迎えると考えられ、先行き不透明感は強まっている。	
	金属製品製造業（総務担当）	・これまでは受注量が多く、フル生産で対応してきたが、年明けから受注量が落ちることはほぼ確実である。	
	輸送業（統括）	・一部の顧客が、合理化のために外部委託していた業務を自社へ切り替え始めたため、業務が減少し始めた。	
	通信業（部門長）	・石油価格は、落ち着いてきてはいるが、影響は尾を引いている。円高が進んでいる状況から輸出関連企業にとっては、かなり深刻な状況となってくるので、通信業も影響を受ける。	
	通信業（営業企画担当）	・一時は価格面より品質を重視する傾向が顧客にうかがえたが、利用コスト削減方向の動きが再び強まってきている。当面は現行サービス維持とシェア死守が重要課題になってくる。	
	金融業（営業担当）	・ガソリン価格が下がったのは良い傾向だが、原材料は上がったままで、建築関連の小さな会社は元の建築業の請負がなくなり、中小企業まで仕事が全然ないという状況が出てきていることから、採算が非常に悪いという状況が続く。	
	金融業（業界情報担当）	・米国経済の停滞に加え、これまで堅調だったアジア・欧州圏でも急速に減速しており、受注は減少傾向となる。	
	悪くなる	繊維工業（統括担当）	・株安・円高その他金融関係の混乱等、社会情勢がしばらくは良くなる見込みがないので、当社も良くなる見込みがない。
一般機械器具製造業（総務担当）		・受注量や販売量の動きから見て良くなる見込みがない。さらに株安・円高等の経済状況の改善も見込めない。	
輸送用機械器具製造業（経営者）		・主要受注先である自動車産業から、途中契約解除の話が出ている。来月はもとより、2～3か月先まで契約解除が続くそうなので、先の見通しが立たない。	
輸送用機械器具製造業（総務担当）		・受注量・生産高共に横ばいの状況が続くと思われるが、原材料価格の高止まりや設備投資による償却費の負担増、労務費・諸経費の増大が収益を圧迫し、更には急激な為替変動の影響など不透明な要因が増加し、先行きは非常に懸念される。	
その他サービス業〔建築物清掃業〕（経営者）		・会合に行っても、金融危機の話ばかりで、これが落ち着かなければ良くなる見込みがない。	
雇用関連	良くなる	-	
	やや良くなる	-	
やや悪くなる	変わらない	職業安定所（職員）	・有効求人数、有効求職者数は、前年比で見れば低い数値であるが、有効求人倍率は同水準で推移しており、すぐに景気が大きく動くとは思われない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・急速な円高や株安を受けてか、派遣人員の削減や派遣契約の打ち切りなどの話が相次いでいる。
		求人情報誌製作会社（担当者）	・採用に関して、今後は現状維持か減退の方針を出す企業が増えてくる。
		職業安定所（職員）	・景気の悪化から求人側の条件が厳しくなっている。求職者には世帯主も多いことから、求人・求職のミスマッチが拡大傾向にある。
		職業安定所（職員）	・高卒求人を出している企業で、求人を出した6～7月に比べると、景気の状況が悪くなってきたというような声を聞く。また、在職中で求職する理由に、賃金の低下、企業の先行き不安をあげる人が散見される。
		民間職業紹介機関（職員）	・金融不安による一連の景気不安に拍車を掛けるように、円高が進行したため、輸出依存度の高い製造業の多い地元地域は、更に厳しくなる。
		民間職業紹介機関（職員）	・正社員の求人案件が取り消しになるケースが、少しずつ増えている。取り消しにならなくて継続になる場合は、採用のハードルが急上昇しつつある。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・求人数、求人数が前年度と比べて減少している。
		悪くなる	人材派遣会社（支店長）

		人材派遣会社（担当者）	・県内の大きな製造業は減産に入るため、関連企業についても、雇用に関して徐々にトーンダウンしてきている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・財政再建を名目に、県などの自治体で予算カットが行われつつある。外郭団体・民間まで、かなり広い範囲で影響を受け、経済がますます低迷して、雇用にも影響がある。
		職業安定所（雇用開発担当）	・原材料高が多少緩和されたとしても、依然として高く、また、製品価格への価格転嫁は容易ではない。これに加え、現在の金融混乱が落ち着く気配はなく、企業の先行き懸念はますます増すばかりで、雇用についても良くなる要素はない。